



赤と白のヒガンバナ（北勢町 山田乙三さん栽培）

笠間小学校 5 年生

学習田で稲刈り

10月1日（金）、笠間小学校の5年生33人が学習田で稲刈りをしました。同校では毎年5年生が、総合学習「未来いなべ科」の授業で、田植えと稲刈りの体験を通して米作りを学んでいます。この日は、「門前ふるさとを守る会」の石原昭彦さんや教職員らの手ほどきで鎌を手に、実った稲を刈り取りました。

小林玲美さんは「田植えの時に小さかった苗が成長して驚いた」、加藤紗也奈さんは「農家さんが苦労して米を作っていることを知り、これからは感謝して食べたい」と話していました。

収穫したもち米は、全校生徒に少しずつ配るほか、卒業する6年生に赤飯にして渡す予定です。

1. たわわに実った稲穂 2. 鎌の使い方を教わったよ 3. みんなで協力して運び様子



身近な自然の疑問に取り組む

自然研究の成果を発表

10月17日（日）、藤原文化センターで第45回児童生徒自然科学研究発表会が行われました。これは、夏休みに取り組んだ自由研究の成果を、子どもたちが自分の言葉にまとめて発表する催しです。いなべ市や周辺地域の小中学生4人と1組が参加しました。

子どもたちは、コロナ禍で遠くへ調査に出たり、専門家に話を聞きに行ったりすることが出来ない中、身近な場所で工夫して研究してきた



たようです。審査員からは、「身近な自然に興味を持つのは良いこと。人前で発表するという経験は将来みなさんの役に立つはず」と感想を述べていました。

河原の石について発表した、いなべ市の伊藤悠真さんは「初めての経験で緊張した。理科が好きなので、また来年も新たなテーマを見つけたい」と話していました。

1. 表彰式の様子 2. ジャコウアゲハやヤマビル、トカゲなど生き物をテーマにした研究が多くみられました 3. 緊張しながらも丁寧に発表する伊藤さん



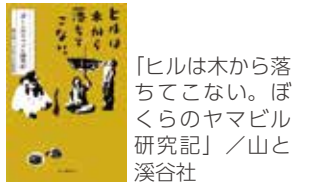
子どもたちの研究結果が本に

ヒルは木から落ちてこない

いなべ市を拠点に活動している「子どもヤマビル研究会」が、研究結果をまとめた本を発行しました。同会は、子どもたちが主体となってヤマビルの生態を研究している団体で、現在、小・中学生の4人が活動しています。11年前からメンバーを入れ替えながら研究を続け、藤原町でヤマビルを採集し、大安町で宿泊研究を行っています。落下実験などを通して、3年がかりでヤマビルが木から落ちないことを調べ上げ、1冊にまとめました。

会のコーディネーターを務める樋口大良さんは「コロナで思うように集まれないが、子どもの発想に合わせて活動に取り組みたい。この本を通して、子どもたちが生き生きと学ぶ姿を知ってほしい」と話していました。

随時会員を募集中。加入の申し込みはこちら ▶ hiruken2@outlook.jp



発行した本を手にする研究会のメンバー。水槽に藤原の土壌と御在所の土壌入れ、ヤマビルがどちらを好むのか観察中

石樽茶をカジュアルに楽しむ

石樽茶のかりんとう

10月4日（月）、グリーンクリエイティブいなべが、初のオリジナル商品となる「お茶のぶさんのかりんとう」の販売を始めました。開発には、いなべ市のマル信緑香園と東近江市でかりんとうを作る山脇製菓が関わりました。特産品のかぶせ茶の粉末をぜいたくに使用した濃厚な緑茶の風味が特徴。市内では、にぎわいの森 inabe's shop や阿下喜温泉、ふれあいの駅うりぼうなどで販売しています。



いなべファミリー・サポート・センター

助け合って子育てを

10月4日（月）～7日（木）の4日間、地域で子育てを応援したいと希望する17人が、「提供会員養成講座」を受講しました。提供会員とは、子育てのサポートを必要としている人（依頼会員）の手助けをする、有償のボランティアです。主な活動は子どもの保育園や習い事への送迎、保護者が外出する時の預かりです。

北勢町下平から参加した40代の夫婦は、「保育園から小学校までの4人の子育てで、育児の大変さを夫婦で実感しました。身近に助けがなく、困っている人の力になれば」と話しました。

1. この日は栄養士から「子どもの栄養と食生活について」を受講。その他の講義も専門の講師から子育てに関わる幅広い知識を学ぶ 2. 子どものおやつは栄養バランスを考えて。調理実習でおやつを手作り

